

相手を強く意識する「日本語」

「日本語は難しい」と言われることがあります。発音自体は、他の言語と比べてもかなりシンプルですが、漢字・ひらがな・カタカナと、使用する文字が複雑なことが難しさの要因の一つでしょう。そして、もうひとつ、難しさにつながるものとして特徴的なのが「敬語」の存在です。

日本語における敬語は、尊敬語・謙譲語に加え、丁寧語や美化語などもありとても複雑です。これらの敬語は時代や地域によってさまざまな要因が絡み合い、長い時間をかけて成立してきたものです。

古代では、人間ではないものに対して使う「自然物敬語」というのがありました。「お日さまがお昇りになる」といった表現がこれにあたります。中世になると、その敬語が天皇や貴族に対する言葉として応用され、その後、身内に対しても使用されるようになっていきます。敬語の発達には地域差もあり、とくに近畿を中心とする西日本でより発達しています。なかでも京都は、天皇から庶民まで、社会のなかに幅広い身分・階級の差があったことから、複雑に敬語が発達していきました。

敬語は、相手を強く意識し相手によって自分の立場が微妙に変化するという、日本人の感覚の特徴を反映しているといえます。

この特徴は、敬語以外にも表れています。たとえば、人称代名詞もそのひとつです。英語では「I」「You」でシンプルに表現される一人称や二人称が、日本語では「わたし、わたくし、僕、自分、おれ…」「あなた、あんた、きみ、おまえ…」などさまざまな言い方があります。相手がだれであろうが私（I）は私（I）、あなた（You）はあなた（You）という英語に対して、日本語では、相手との上下関係や親密さの程度など、相手を強く意識することで、使い分けされています。

敬語や人称代名詞に限らず、日常の会話の中で、相手のちょっとした話し方の違いで、馴れ馴れしく感じたり、よそよそしく感じたりした経験が、みなさんにもあるのではないのでしょうか。それらも、自分と相手との関係性や立場などを強く意識することから生じる感覚といえるでしょう。

異なる言語は、正確には翻訳できません。それは、それぞれの言語に、人々の考え方や感じ方が強く反映されているからです。言語の違いや特徴を理解することは、その国や地域の人々のことを理解し、私たち自身についても深く理解することにつながるでしょう。

～受けた後のテストや模擬を上手に活用しよう～

テストや模擬の解き直しは成績アップへの近道！

みなさんはテストや模擬を受けた後はどうしていますか？

「受ける→結果（判定）見る→喜ぶ（ショックを受ける）→おしまい」にいませんか？

テストや模擬は、弱点を明確に示してくれる診断書のようなものです。今月は、そのテストや模試の上手な活用方法についてレクチャーしたいと思います。

中間テストや期末テストも大切なテストです。受験生はもちろんですが、現在受験生ではない生徒さんも見逃さないようにしてください。

①判定だけではなく、どこが定着していないか確認しよう。

テスト結果が返却されると、たいていの人は判定だけをみて一喜一憂します。気持ちはよく分かりますが、結果はくつがえりません。ここでは「今回は良かった or 悪かった」などより、どの科目のどの単元ができていなかったのかを確認しましょう。

②「できた！」と「あつた！」を分類しよう。

文字通り、「できた」=『いつ出題されても大丈夫』であり、「あつてた」=『たまたま正解。ラッキー!』ということです。それらを分類するためにも、テストや模擬を受ける際、自信のなかった問題には△印などを付けておくと復習の時に役に立ちます。

③復習は結果が返却される前までに終わらせよう。

テストや模擬は終了後に会場で解説・解答が配付されます。結果が返却されるまでに1週間程度かかります。復習はその間に済ませてしまうことをおすすすめします。「分からないもの」をその意識があるうちに「分かるもの」にすることが重要です。定期テストの場合すぐに答えは配付されませんが、テスト返却から1週間以内をめぐりに復習をしましょう。



④復習=納得してからの解き直し。

(ここが一番大切です。)

- ・もらった解答を見て間違いを見つけたら、まず解説を
じっくり読むこと。
- ・もしくは教科書や参考書でしっかり調べること。
- ・わからなければ学校や塾の先生に必ず質問すること。

自分の間違いを正面から受け止め、何をどう間違え

た

のか確認・納得することです（もちろん上記②番で
付け

た△印の箇所も）。それをせず再度挑戦しても意味が
あ

りません。部活動と同じで試合に負けたのに反省も
練習

もせず、再度同じ相手に臨んでいるようなものです。

また、模範解答というのはあくまで模範です。納得したら、数学なら必ず自分の手で解き直しをすること。それをしなければ数学は伸びません。その他、理科・社会の用語や英単語や漢字など暗記すべきことはその場で覚えることが大事です。



《NG（おすすめしない）復習法》

- ・（すぐ前にも書きましたが）答えを見てわかっただけで、改めて解き直していない。
 - ・間違えたところやポイントをとりあえずノートにきれいに写すだけ。
 - ・ノート作りに時間の大半を費やしている。
 - ・復習したとき以外、見返さない（見返していない）。
- これらをやっている人は、成績アップは見込めません。

今すぐ改善しましょう。

【中学生向け】

Vもぎを受ける意味

- ・東京都内で行われ偏差値の出る試験のため、受験生自身の学力状況・推定順位が正確に把握できる。
- ・「都立そっくりテスト（もぎ）」を中心に、名前の通り「都立一般入試」の問題形式・出題傾向・難易度に類似し、「都立一般入試」の擬似体験ができる（時間スケジュールは異なります）。
- ・中学校内の「確認テスト」や塾内での「志望校判定テスト」とは異なり、他校の受験生と机を並べ、入試本番の雰囲気を体験できる。
- ・会場が近隣の私立高校中心に設営されるため、高校内の様子がある程度知ることができる。
- ・その結果（偏差値）は私立高校への推薦や優遇を獲得する上で入試相談に使える場合もあり、入試結果に大きく影響する。ですから模擬試験であっても本番同様、全力で取り組んでください。



【高校生向け】

マーク式テストでのマークミスに注意！

大学入学共通テストや大学によっては、一般入試でもマークシート方式でのテストが出題されます。テスト本番で実力を発揮し、目標通りの点数を獲得するためには、マークミスをしないことがとても大切です。

どのようなところでミスをしやすいのか、そして、マークをする際の注意点をまとめました。

〈マークミスあるある〉

- ・空けるはずがつめてマークしてしまった。
- ・1つの問題に2つマークするなどの重複。
- ・「+」「-」などの符号のマークミス。
- ・分数表記でのマーク順をミス。



〈マークミス防止方法〉

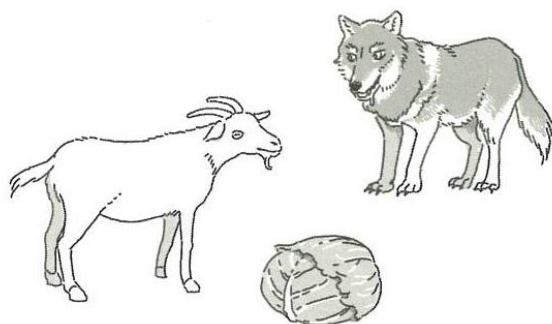
- ・ 区切りのよい所で必ずチェックする。
問題を解いて、大問ごとなどキリのよい所でマークがずれていないか確認する。
- ・ 分からず解答欄を空けている問題も 仮に塗っておくなどして、マークのずれを防ぐ。
1問のずれによるマークミスで大量に点数を失う可能性がありますよ。
- ・ 問題冊子と異なる順番で解く場合、問題番号と解答欄のチェックを1問ずつ行う。
- ・ 試験時間の ラスト5分はマークミスチェックの時間と決めて、5～10分ほど短い時間で練習や演習をし、模試などでも実践してみる。

ぜひ頑張って合格を勝ち取ってください！

考えてみよう！《10月号》

1 有名な「川渡り問題」です。

ある人が、オオカミ1匹、ヤギ1匹、キャベツ1個をボートで川の向こう岸へ運ばなければならない。ボートには人1人と何か1つしか乗せられない。またヤギとキャベツを一緒に残すことはできないし、オオカミとヤギを一緒に残すこともできない。人は最短で、どのようにしたら3つのものを向こう岸に運ぶことができる？



2 ①～⑥にあるカタカナは、ある言葉をバラバラに並べ替えたものです。カタカナを正しく並び替え、答えをカッコ内に漢字で書いてください。下の4つの言葉は答えの言葉と関連の深いヒントです。

1 タゲンモジノリガ

()

色男
平安時代

貴族
長編

4 ウサトキツリユ

()

ラクダ
中国地方

海岸
国立公園

2 クゼランセサン

()

気象
南から北

春到来
造語

5 ウケヨンチチシザヨイ

()

都市
仙台

役所
福岡

3 シウラウタマロ

()

海の中
小さな箱

カメ
ごちそう

6 キコツカンニウ

()

小学生
順番

ノート
連絡

※ 教室に応募用紙を置いています。奮ってご応募ください。
毎月、正解者の中から2名の方に図書カードをプレゼント
します。締切は10月14日（土）です。

☆先月号の答え☆

1 ホント族もウソ族も「私はウソ族」とは言えない（ホント族が言ったなら、ホント族がウソをついていることになるし、ウソ族が言ったなら、ウソ族が本当のことを言っていることになる）。よって、Bの最初の発言はウソで、Bはウソ族。Bの2つ目の発言（ウソ）より、Cはホント族。Cの発言より、Aはホント族。

- 2
- ① $A \rightarrow C \rightarrow D \rightarrow B$ ② $C \rightarrow B \rightarrow D \rightarrow A$
③ $F \rightarrow A \rightarrow C \rightarrow E \rightarrow D \rightarrow B$
④ $D \rightarrow E \rightarrow F \rightarrow B \rightarrow A \rightarrow C$